

# がん闘病「励まし合い大切」

患者団体の白戸さん  
弘大セミナーで訴え

## 弘 前

弘前大学は、5月から7月未まで、7回にわたって外部の講師を招き、がんに関する連続公開セミナー「ザ・ボイス・オブ・ライフ(命の声)」を同大で開催した。最終回の7月29日は、イベント企画会社「フジ・バンケット・プロデュース」の常務取締役で、乳がん患者団体「ほほえみネットワーク」副会長の白戸

百合花さん(43)＝弘前市＝が、乳がんの闘病経験を発表し、励まし合える仲間の大切さや、検診受診の重要性を訴えた。

セミナーは、2人に1人ががんに罹患する時代で、



「がんを経験して、分かり合える仲間と出会った」と語る白戸さん

がんにどう向き合おうかを考えるため、ヘルスケア企業や保険会社、患者団体、行政の担当者らをゲストに招いて、話を聞くという企画。29日は学生や一般市民ら約30人が参加した。

白戸さんは、ステージ2の乳がんを診断された3年前を振り返り、「頭が真っ白。恐怖を感じて泣き崩れた」と語った。

「子どもを残して自分が死んでしまったら」という不安、治療費捻出の苦労、がん保険に入っていないことが

後悔などを吐露。抗がん剤治療の苦しさについて「もう殺してくれ、と思うほどだった」と明かし「髪の毛が抜け落ちた時の惨めな気持ちは経験者しか分からない」とも述べ、頑張ってきたのは、がんを経験した仲間や周囲の支えのおかげと感謝し「時間を大切に、笑顔でいたい。私は生きる」と力強く語った。

セミナーを企画した石山新太郎教授(理工学研究科)は「短命県という青森県の課題を把握し、課題解決へ向けた意識を高めることができた」とセミナーの意義を語った。(菊谷賢)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。  
東奥日報社に無断で転載することを禁止します。  
[問合せ先]弘前大学理工学研究科  
E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp